中学校国語教育 実技理論研修会 報告

テーマ	「主体的な学びを深める国語授業の在り方」
日時	令和2年 11 月 20 日(金)
会場	石狩教育研修センター
講師	梅村 武仁 氏 (元 北海道教育大学教職大学院 特任教授)
参加者	11 名



講師の梅村先生はコロナ禍にも関わらず、心よく講師を引き受けて下さいました。長年、現場で国語を通じて生徒たちと向き合ってこられた豊富な授業実践をもとに「主体的な学びを深める国語授業の在り方」について、数多くのご示唆を頂きました。また、教職大学院では先生方の協働や学級経営などの研究をされており、国語の観点以外からも、貴重なお話を聞くことができました。



まずはじめは、なぜ、「主体的・対話的で深い学びが大切か」ということを皆で共有しました。大切なことは具体的な授業改善のイメージを持つこと、そのために考えうる手立て、またその際に課題となってくることを、「主体的な学び」の視点、「対話的な学び」の視点、「深い学び」の視点、それぞれから確認することができました。

の 様 子

研修会



後半は、実際の授業実践を数多く紹介して 頂き、今後の授業づくりのヒントになる内容 が続きました。教材自体は、過去のものであっ たり、以前の内容のものもありましたが、全て 梅村先生ご自身が練り上げ、何回も何回も追 試を行った実践ばかりで、子どもたちとのや り取り、息遣いまでが伝わってくるようでし た。



また、「深い学びのヒント」として、「宮沢賢治の授業」についてもご紹介頂きました。80年たっても教え子が鮮明に覚えているという、「宮沢賢治の授業」は、目に見えるような説明、実生活に置き換えて深く考えさせる、生徒同士のディスカッションなど、現代の教育、授業づくりでも私たちが大切にしなければいけないことに満ちあふれています。これからも教師が教えたいこと=生徒が学びたいことを目指していく確認をして、理論研修会を終えました。